第１号の２様式（第１条関係）

実　務　経　歴　書（第1面）

私は、二級／木造 建築士の試験（免許）を受けたいので、建築実務の経歴を下記のとおり記載し、併せてこの実務経歴書の内容が事実と相違しないことを第三者が確認したことを証する実務経歴証明書を提出します。
なお、下記記載事項が真実で、かつ、正確であることを誓います。

令和○○ 年　○○ 月　○○日

氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ㊞
（ 自 署 ）

埼　玉　県　知　事
埼玉県指定登録機関　　殿
一般社団法人埼玉建築士会会長

記

勤務先等			
勤務先（部課名まで）	所在地（番地まで）	在職期間の合計	
		年月～年月	年月数
株式会社○○建築設計事務所 ○○部　○○課	○○県○○市○○町○○丁目○○番地	H29年　4月～　R4年　3月	5年 0か月

在職期間		地位職名	建築実務の内容（建築士法施行規則第1条の2）
年月～年月	年月数		
R2年4月～R4年3月	2 年 0 月	技師	その他（公共建築物における維持管理保全計画及び利活用検討に係る業務）
年　月～　年　月	年　月		
年　月～　年　月	年　月		

建築実務の詳細	建築実務経験期間の合計
	2 年　0 か月

新
最近
↓
古

	対象物件の名称等	対象物件の所在地	建築実務経験期間		
			年月～年月	建築実務の割合	年月数
（１）	○○図書館の長期的な維持保全計画	○○県○○市○○町○○丁目○○番地	R3年 4月～R4年 3月	100 %	1年 0月か月
	実務経験の対象となる業務の内容（できるだけ具体的に　用途・構造・規模・担当業務 等）				
	○○市の○○図書館の長期的な維持保全計画の策定業務において、建築物や設備機器の劣化調査や法令等への適合状況の確認を行い、○○図書館の改修・保全方法等の検討を行った。				
（２）	対象物件の名称等	対象物件の所在地	建築実務経験期間		
			年月～年月	建築実務の割合	年月数
	既存建築物の利活用検討	—	R2年 4月～R3年 3月	100 %	1年 0月か月
	実務経験の対象となる業務の内容（できるだけ具体的に　用途・構造・規模・担当業務 等）				
	○○町の既存建築物の利活用の検討業務において、町内の5棟の既存建築物の法令への適合状況や改修の可能性を設計図書を用いて検討したうえで、既存建築物の利活用に関する具体的な方策の検討を行った。				
（３）	対象物件の名称等	対象物件の所在地	建築実務経験期間		
			年月～年月	建築実務の割合	年月数
			年　月～　年　月	%	年　か月
	実務経験の対象となる業務の内容（できるだけ具体的に　用途・構造・規模・担当業務 等）				

	対象物件の名称等	対象物件の所在地	建築実務経験期間		
			年月～年月	建築実務の割合	年月数
（４）			年　月～　年　月	％	年　か月
	実務経験の対象となる業務の内容（できるだけ具体的に　用途・構造・規模・担当業務 等）				

	対象物件の名称等	対象物件の所在地	建築実務経験期間		
			年月～年月	建築実務の割合	年月数
（５）			年　月～　年　月	％	年　か月
	実務経験の対象となる業務の内容（できるだけ具体的に　用途・構造・規模・担当業務 等）				

	対象物件の名称等	対象物件の所在地	建築実務経験期間		
			年月～年月	建築実務の割合	年月数
（６）			年　月～　年　月	％	年　か月
	実務経験の対象となる業務の内容（できるだけ具体的に　用途・構造・規模・担当業務 等）				

	対象物件の名称等	対象物件の所在地	建築実務経験期間		
			年月～年月	建築実務の割合	年月数
（７）			年　月～　年　月	％	年　か月
	実務経験の対象となる業務の内容（できるだけ具体的に　用途・構造・規模・担当業務 等）				

※経由機関記載欄	※指定登録機関記載欄

注意事項　1　数字は、算用数字を用い、二級/木造欄は該当する方を〇で囲んでください。

2　氏名の記載を自署で行う場合においては、押印を省略することができます。

3　この実務経歴書は、勤務先（自営業を含む。）ごとに作成し、今までの建築に関する実務の経歴について受験又は登録に必要な業務内容を年代順に記入してください。

4　記載内容に不備があった場合又は疑義が生じた場合には、再提出や追加書類の提出を求めることになり、登録が遅れる場合があります。

5　虚偽の実務経歴を記載した場合には、建築士法上の措置や登録が認められない場合もあります。

6　※の欄は、記入しないでください。